

平成24年度 第1回京都府子育て支援対策協議会の概要

1 日 時 平成24年9月4日(火)10時30分~正午

2 場 所 ルビノ京都堀川 朱雀の間

3 出席者 澤田座長、伊藤委員、河嶋委員、櫛田委員、小高委員、芝野委員、樋口委員、
藤本明弘委員、藤本明美委員、山岡委員

5 議 事

(1)平成23年度京都府子育て支援に関する施策の実施状況について

【主な意見】

- ・家族というものを今の若い人たちは認識できておらず、そういった教育が必要ではないか。
- ・日本では子育て支援という定義がまだ共有されていない。ここから先はダメ、ここまではサービスという線が不明確。支える必要のある方は多くいるが、本当の意味での子育て支援とは何かをはっきりしていく必要があるだろう。
- ・例えば、病児病後児保育に関して、熱がでたりしたその日は預かってても次の日からは預かれない。父も母も仕事を休めず、何とかしたくても国の制度があるので出来ない。そこに少しでもメスを入れてもらいたい。
- ・親教育が行き届いていないのが最大の原因だが、保育園・幼稚園などの現場がもっと関わっていかなければならないとも思う。また、親をどう育てていくのかという視点が必要であり、親は現実問題として子の面倒を全部見切れないので、周囲のお年寄りなどを活用して、地域みんなで子どもをサポートする環境づくりをしていくことが必要。
- ・小さい規模の会社では、数人が育児休暇で休まれたら会社が潰れる。だから皆やめられない、結婚したがる、産みたがる。出産と職は“セット”になってしまっている。
- ・人材サポートセンターのようなものを作り、育休中も自分で育児ができるよう中小企業を支援する。外国では2年くらい夫婦で育児すると聞く。社内みんなで結婚(出産)を喜び、育児休暇を承認する。子どもを生める環境をサポートする環境が必要。
- ・府は、様々な施策をしているが、実際みんな知らない。民間であれば、駅改札口のフリーペーパー、またSNSなど身近に情報を入手できる手段があり、検討してはどうか。
- ・周りでは離婚している人が多い。そういう人も婚活イベントで次の出会いがあればよい。ただ、田舎なのでそういう名前のイベントが恥ずかしいという声を聞く。
- ・「少子化対策で特に期待する施策」では、仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しの促進が最も多い。少子化対策の切り口が大切で、“子ども目線”で「子どもがいかに幸せに生きる」かを保障する環境が必要ではないか。
- ・こういったテーマを長期的な視点で検討していくこと、また、京都ブランドを発信して国を変えていくことが必要。長期的・短期的の二本立てでやっていく必要がある。